

日本語には「ピカピカ」、「すっきり」、「ルンルン」などのように様子を表す擬態語や「どすん」、「カチカチ」、「どたばた」などのように音を表す擬音語がありしばしば使われます。擬態語と擬音語は合わせてオノマトペと呼ばれ日本語に多い言葉です。擬音語のなかにはさらに「ワンワン」や「ホーホケキョ」のように動物が発する音を模した擬声語があります。たとえば、「ピカピカ」は普通の言葉で表そうとすると「鋭く光り輝く」のようにやや長く固い印象になり、フィーリングを直接伝えるにはオノマトペがとても便利です。

ここでは多くのオノマトペのなかから水の流れに関するものを選んで技術的な解釈も加えながら日本人の豊かな感性の一端を味わってみたいと思います。

飲み物のオノマトペ

「とくとく」といえば徳利とっくりから盃にお酒が注がれるときに聞こえる何ともいえない音を思い出します。徳利からお酒が出てゆくためには同じ体積の空気が徳利に入れ違ちがいに入っていきます。つまり徳利の首のところでお酒と空気がすれ違ちがいます。このときに空気が「つーっ」と滑らかに流れることができず、切れ切れの気泡に分かれて入ってゆく

ので「と・く・と・く」とリズムを刻むのです。大きな瓶では「どくんどくん」と低い音になります。オノマトペの研究によれば清音には「軽快、清らか、小さい」、濁音には反対に「鈍重、濁り、大きい」というイメージがあるそうです。清酒はやはり「とくとく」と注ぎたいですね。

池のオノマトペ

カエルが池に飛び込むときの音はやはり「ちゃぼん」でしょうか。水面にものが落ちたときの音はほかにも「ぼちゃ」、「ぼちゃっ」、「ぼっちゃん」、「どぼん」など挙げればキリがありません。上の徳利の例のように「ぼちゃ(p)」と「ぼちゃ(b)」の違いは清音・濁音で説明できそうです。「どぼん」に至っては濁音が二つも使われていますので、かなり大きなものが落ちたときの音だと想像できます。語尾の変化にもある程度規則性があるようです。語尾に「っ」、「ん」、「り」、「ー」を付けることによって微妙なニュアンスを演出できます。上の場合「ぼちゃりーんっ」などは聞いたことがありませんが何が落ちたと想像しますか？ちなみに、最初の「ちゃぼん」は細かく観察すると、「ちゃ」はカエルが水面に衝突した音で、「ぼん」はカエルが沈んだあとに立った水柱（水

水の流れとオノマトペ

技術開発本部
内田 博幸



「とくとく」



「ちゃぼん」

滴)が水面に落ちたときに出る音だと言われています。最初に「ちゃぼん」と表した人の耳のよさに脱帽です。

波のオノマトペ

水面の表情は季節や気象条件によって変化します。与謝蕪村の俳句で有名な「のたりのたり」は春の海ののどかでゆったりとした様子を詠んだもので、ほかの形容詞などでは代えがたいでしょう。水面の様子は深さや風の強さによってさまざまな表情を見せてくれます。かすかに風が吹くとさざ波が立ちはじめ、風速が数メートル程度になると波頭が立ってきます。熟練したウィンドサーファーは波の状態をただ目で見て風速を言い当てられるそうです。

磯に打ち寄せて岩に当たって「ざぶーん」と砕ける大波は豪快ですが、「ちゃぶん」ではカモメの水兵さんが遊ぶさざ波になってしまいます。これも清音(ちゃぶ)と濁音(ざぶ)のイメージで説明できそうです。流れのイメージでは「ざ」は波頭が細かく砕け散る音、「ぶーん」は水の塊が岩にぶつかる衝撃の余韻を表しているようです。ちなみに、桃太郎の「どんぶらこ」は波そのものの様子ではなく、波が「どん」と当たって「ぶらこ」と揺れる桃の様子を表しているようです。

激流のオノマトペ

はるか上の方から流れ落ちる流れが滝つぼで発する音は「どーっ」でしょうか。「だーっ」も近いですがやはり「どーっ」ですね。この違いは母音のもつイメージで説明できます。「あ」音は大きく外に広がったニュアンスがあり、「お」音は内に籠もった丸く重いイメージだそうです。「だーっ」では周り中に飛び散ってしまい、滝つぼに集中して岩壁に低音で響く様子とは異なった雰囲気になります。川下りの激流ならば「だーっ」も似合いそうです。



「のたりのたり」

ちなみに「い」音は緊張、「う」音は抑圧、「え」音は汚い感じもあるそうです。たしかに滝が「でーっ」と落ちてきたら不気味かもしれません。

日本語には水の流れを表現する言葉が豊富にあることが分かりました。工業製品では流れの計測といえば圧力や流量が定番ですが、将来はオノマトペも活躍するかもしれません。『この配管の音、いつもは「ザーザー」なのに今日は「ザボツザボツ」と聞こえる』とか『タンクの液面の揺れ方がいつもは「ゆらゆら」なのに今日は「ゆっさゆっさ」と見える』という具合に。

雨のオノマトペもたくさんあります。「ぼつぼつ」、「しとしと」、「ばらばら」、「ざあざあ」、「どしゃどしゃ」などなど。これは別の機会に「ゆっくり」と。



「どーっ」